

1～3月期の業況は低迷する

【特別調査】－「経営者の健康管理と事業の継続について」

【調査要領】

調査時点：2018年3月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査票回収：98社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス)による分析
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

(例)

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50%－(悪い)25%＝(D.I.)25

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	31
卸売業	9
小売業	16
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	98

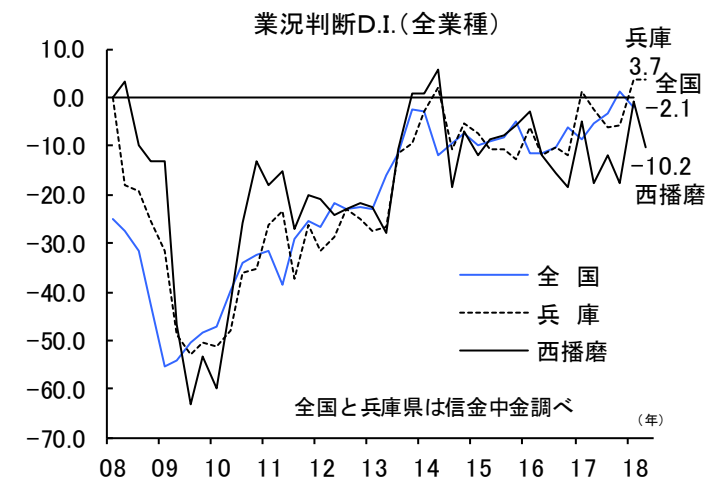
全業種総合

～景況感は低迷する～

18年1～3月期(今期)の業況判断D.I.は△10.2と、前期比9.2ポイント低下した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業の割合が減少したことに加え、業況が「悪い」と回答した企業の割合が増加したことにより、前期比9.2ポイントの低下となった。

収益面では、前年同期比の売上額判断D.I.が1.0と前期比2.0ポイント低下し、同収益判断D.I.は△7.1と前期比10.1ポイント低下した。

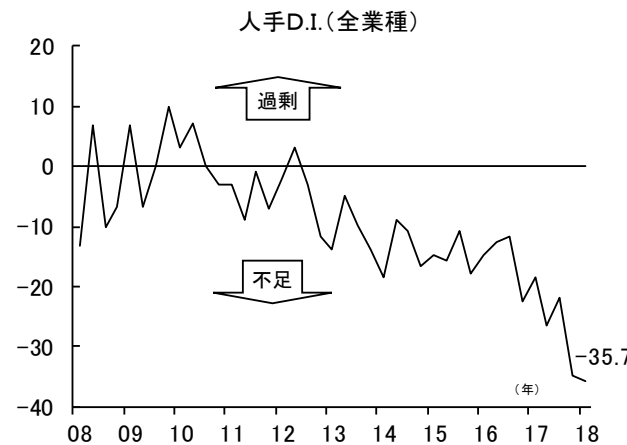
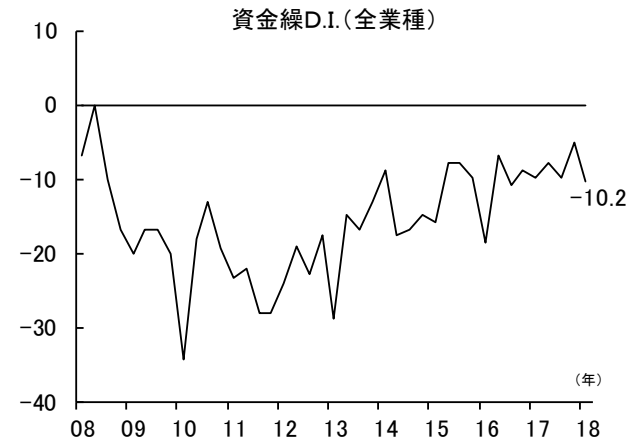
業種別の業況判断D.I.は、6業種すべてで低下した。販売価格の低下などによる売上高の減少に加え、資金繰りがやや苦しくなったことが主な要因であった。



【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

業種名	2017年10～12月	2018年1～3月	2018年4～6月(見通し)
総合	晴	曇	曇
製造業	晴	曇	曇
卸売業	雨	雨	雨
小売業	雨	雨	雨
サービス業	曇	曇	曇
建設業	曇	曇	曇
不動産業	雨	雨	雨

天気図の凡例: 快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨。好調← →低調



経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	42%
2位	人手不足	37%
3位	利幅の縮小	27%
4位	同業者間の競争の激化	24%
5位	原材料高	17%

＜経営上の問題点＞

経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が42%、「人手不足」が37%と多く、その他では「利幅の縮小」が27%、「同業者間の競争の激化」が24%、「原材料高」が17%となっている。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	49%
2位	販路を広げる	38%
3位	人材を確保する	36%
4位	宣伝・広告を強化する	16%
5位	教育訓練を強化する	13%

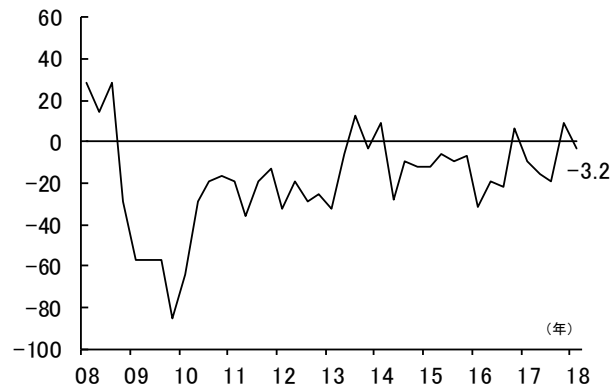
＜当面の重点経営施策＞

当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が49%、「販路を広げる」が38%「人材を確保する」が36%と多く、その他では「宣伝・広告を強化する」が16%、「教育訓練を強化する」が13%となっている。

※2009年12月期までは、信金中金が「全国中小企業景気動向調査」として実施している当金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。

製造業

業況判断D.I.(製造業)



来期の予想業況判断 D.I.は△3.2 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

～製造業の景況感は低下する～

今期の業況判断 D.I.は△3.2 と、前期比 12.6 ポイント低下した。

前年同期比売上額判断 D.I.は 3.2 と前期比 21.8 ポイント低下し、同収益判断 D.I.は△6.5 と前期比 37.8 ポイント低下した。

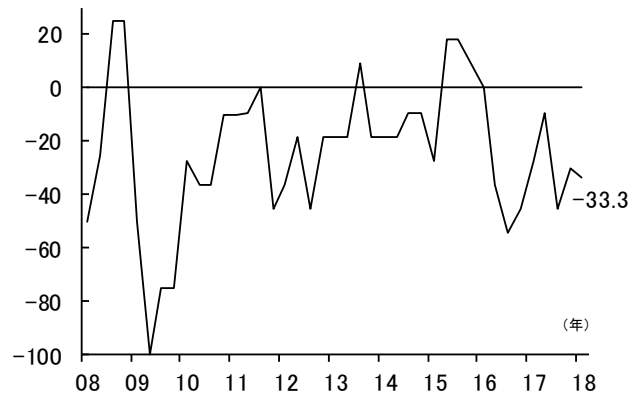
設備投資実施企業割合は 22.6%と、前期に比べて 11.8 ポイント低下し、3 四半期ぶりの上昇一服となった。

資金繰り判断 D.I.は 6.5 と前期比 9.1 ポイント低下した。

人手過不足判断 D.I.は、△38.7 (前期は△40.6) と、人手不足感は弱まった。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は低下する～

今期の業況判断 D.I.は△33.3 と、前期比 3.3 ポイントの低下となった。

前年同期比売上額判断 D.I.は△11.1 と前期比 8.9 ポイント改善し、同収益判断 D.I.も△33.3 と前期比 6.7 ポイント改善した。

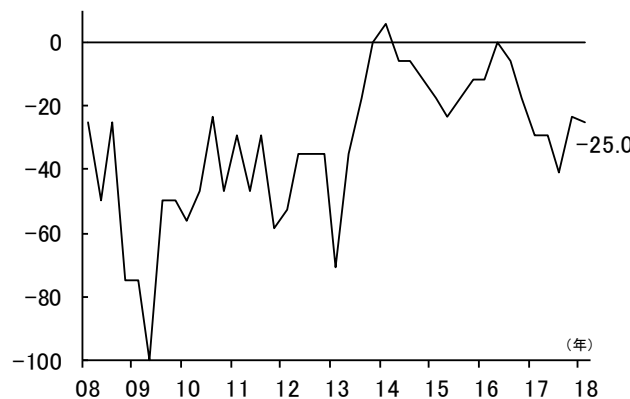
資金繰り判断 D.I.は△11.1 と前期比 1.1 ポイント低下した。

人手過不足判断 D.I.は、△33.3 (前期は△40.0) と、人手不足感は弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△33.3 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



インットの低下を見込んでいる。

～小売業の景況感は低下する～

今期の業況判断 D.I.は△25.0 と、前期比 1.5 ポイントの低下となった。

前年同期比売上額判断 D.I.は△12.5 と前期比 0.7 ポイント低下となり、同収益判断 D.I.は△6.3 と前期比 6.3 ポイントの低下となった。

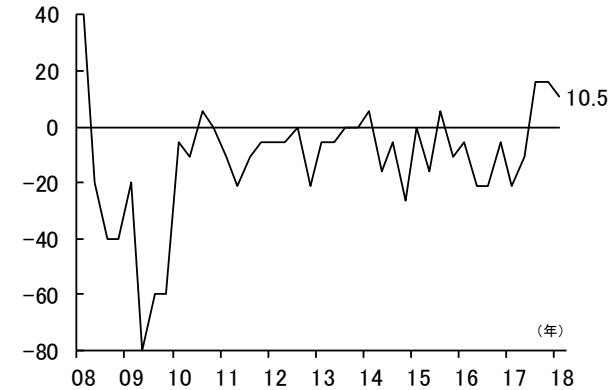
資金繰り判断 D.I.は△25.0 と前期比 4.4 ポイント改善した。

人手過不足判断 D.I.は、△12.5 (前期は△5.9) と、人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△37.5 と、今期実績比 12.5 ポ

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は低下する～

今期の業況判断 D.I.は 10.5 と、前期比 5.3 ポイント低下した。

前年同期比売上額判断 D.I.は 15.8 と、前期比 10.5 ポイント改善し、同収益判断 D.I.は 0.0 と前期比横ばいとなった。

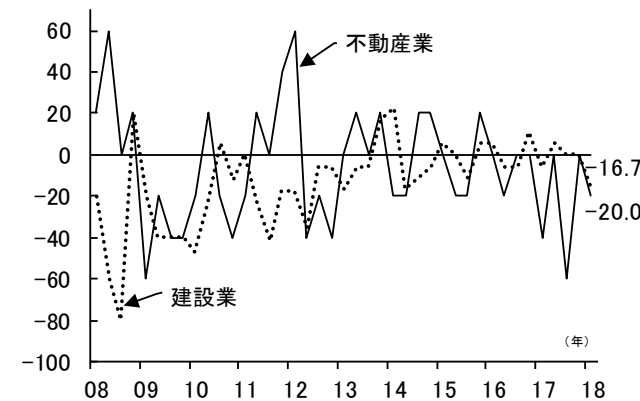
資金繰り判断 D.I.は△15.8 と前期比 10.5 ポイントの低下となった。

人手過不足判断 D.I.は、△36.8 (前期は△47.4) と、人手不足感は弱まった。残業時間判断 D.I.は△15.8 と前期比 15.8 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は△5.3 と、今期実績比 15.8 ポイントの低下を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は低下する～

今期の建設業の業況判断 D.I.は△16.7 と、前期比 16.7 ポイントの低下となった。

前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0、同収益判断 D.I.は△11.1 と、前期比ともに横ばいとなった。

受注残判断 D.I.は 0.0 と、前期比 16.7 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は△27.8 と、前期比 11.1 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、△61.1 (前期は△44.4) と、人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は 5.6 と、今期実績比 22.3 ポイントの改善を見込んでいる。

～不動産業の景況感は低下する～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は△20.0 と、前期比 20.0 ポイントの低下となった。前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と前期比 40.0 ポイント改善し、同収益判断 D.I.は 20.0 と、前期比 40.0 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は 20.0 と、前期比 20.0 ポイント改善した。在庫過不足判断 D.I.は△20.0 と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は 20.0 と、今期実績比 40.0 ポイントの改善を見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：人材確保のため、福利厚生に力を入れ、離職者を極小化し事業を安定させる。

卸売業：今後は、他社とのビジネスマッチングを図り販路拡大に努めていく。

小売業：同業者間の競合が激しくなっている。

サービス業：業況は前年同月比で横ばいとなっている。職員一人一人の技術力の強化をめざし講習等を増やしていく方針。

建設業：独自の工法を活かして人気を維持している。個人事業ではあるものの全員に方針の徹底ができており、代表者も更なる向上をめざし知的財産等に取組みセミナーを活用している。

不動産業：分譲地の販売が不調、営業活動に力を入れていく。